

流動体を表現した永尾淳史さんの木彫作品



彫刻を志す人々のグループ「彫刻集団・佐賀」の有志10人が、6日から同グループ初の福岡展を開く。小品中心だが、バラエティー豊かな作品をそろえ、彫刻の楽しさを伝える。

「木彫で自然現象を捉える」ことをテーマとする永尾淳史さん（武雄市）は、チューブから出る絵の具のような流動体を表現。「木には生きた素材の面白みがある」と話す。同じく木彫を出品する小泉タ可利さん（唐津市）は、愛犬など動物をモチーフに愛らしい作

品を並べる。

今回からグループ初参加の西村幸一郎さん（佐賀市）は、高校で彫刻の授業を受け持った経験から生まれたレリーフの新技法に挑戦した。粘土板に彫った細かなくぼみに石こうを流し込み、わずかな凸部で繊細な造形を作る。

有明海で漁を営む海女をイメージした古賀義治さん（白石町）の「漁婦」や、漫画「ピーナッツ」の登場人物の愛らしさからヒントを得た井形亮子さん（大牟田市）の「ライナス」、3人

彫刻の多様さ披露

福岡で
6日から
「彫刻集団・融展」



諸井謙司さんの「家守」

▶電子新聞に 複数写真

の小さい妖精がつえやのこぎりなどを手にしている諸井謙司さん（佐賀市）の「家守」と、人物像も多彩な作品が集う。

事務局の井形さんは「彫刻家の活動が活発な福岡で、佐賀の作家の取り組みをアピールしたい」と話している。
（西麻希）

▶「彫刻集団・融展」は6～11日、福岡市中央区天神の新天町村岡屋ギャラリー＝電話092（711）1187＝で。